干潟の砂団子の犯人は？

砂団子で干潟の生物に親しむ

干潟にたくさん落ちている砂団子。この団子を作るカニの様子を観察し、干潟の生物に親しむきっかけにします。干潟観察の導入として活用してもいいかもしれません。

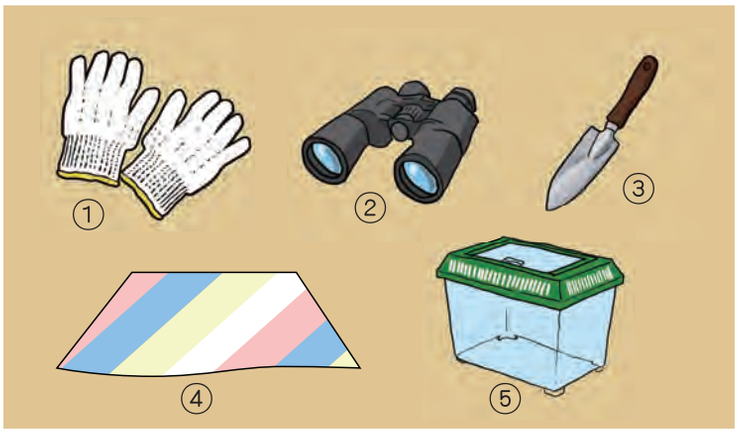
対象　幼児～小学生
場所　干潟
時間　1時間 ※春～秋の大潮前後

プログラムの前に…

1. 用意するもの

①軍手
②双眼鏡
③移植ごて
④ブルーシート
全員が寝ころべる広さ
⑤プラケース

※その他に着替え・帽子・タオル・日焼け止めなど活動のしやすい服装や道具を用意する。

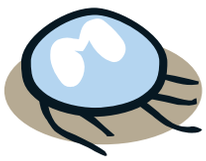


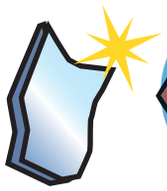
2. 事前の準備

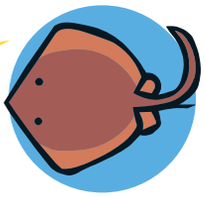
危険を予測しよう

・干潟には有毒の生物や危険物が打ち上げられている場合があります。事前に危険な物を確認し、さわらないようにしましょう。

注射器


死んだクラゲも毒針が！


ガラス

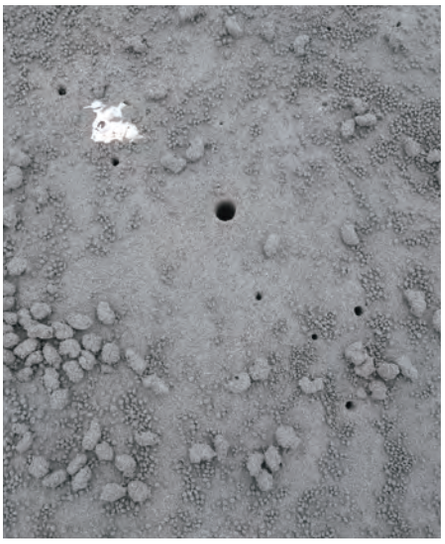

アカエイ

カキやフジツボなどの付着生物にも注意が必要

プログラムの本番！

1. 砂団子を探そう！（約20分）

参加者がそろい挨拶・注意説明を済ませたら、砂団子を探しに行きましょう。観察範囲を歩いて一番多くの砂団子が落ちている場所を見つけ、次の観察につなげましょう。



2. 砂団子の犯人は？（約30分）

①団子作りを観察しよう
砂団子が多く落ちている場所を見つけたら、そこから少し離れた場所で観察します。ブルーシートを広げ、参加者と寝そべりながら、双眼鏡で団子の周囲を観察します。しばらくすると穴からカニが現れ、団子を作る様子を観察できるでしょう。
この時スタッフはなぜこのような行動をしているかを解説してあげると理解が深まります。

②犯人を捕まえよう
次に団子の落ちている巣穴に近付き、巣穴を移植ごてで掘り返してカニを捕まえましょう。捕まえたカニはプラケースに入れます。

3. ふりかえり（約10分）

捕まえたカニを観察しながら振り返りを行います。小さなカニが干潟で何を食べ、どこで暮らし、どのように生活しているかを参加者に想像してもらいながら話をしましょう。この時、空の鳥や海中の魚など周囲の天敵が狙っているなか、採食していることを紹介すると、今回の観察とのつながりがより理解できるでしょう。

ココがポイント

砂団子を作るカニたち

干潟で砂団子を作るカニといえば、コメツキガニやチゴガニがいます。この2種は棲み分けていて、泥が多い場所ではチゴガニ、砂っぽい場所だとコメツキガニがいます。
また南方ではシオマネキの仲間が見られ、南へ行けば行くほど種類も増えていきます。

チゴガニ

ハクセンシオマネキ

カニ流！砂団子の作り方

カニは砂の中に混ざった有機物を食べるのですが、砂団子はその過程で作られます。砂を口に入れると、口の中で水流を起こして砂と有機物を分離させ、砂だけを口の外に出します。水流によって砂が団子状に溜まると、ハサミで切り取って捨てます。
この作業を数秒に1個のハイペースで行います。短い干潮の時間内にごはんを食べる工夫ですね。